

埼玉連だより

令和4年11月30日

第
70号

★発行事務局 〒359-0026 所沢市牛沼 250-19 (本橋民夫方) TEL・04-2995-3839

埼玉県弓道連盟総務委員会

栃木国体を終えて

会長 本橋 民夫

第77回国民体育大会は、「いちご一会とちぎ国体」と銘打って栃木県で開催され、弓道競技は会期前の9月9日(金)から9月13日(火)までの5日間宇都宮市において行われました。大会はコロナ禍第7波の最中であったこともあり、三密の防止、消毒の徹底、陽性検査の実施等各種のコロナ感染防止対策を講じられた中で行われました。我々審判員は、大会初日の5日前に検体を指定された医院に送って検査を受け、更に大会初日及び3日目にPCR検査を受ける等何度も「陰性確認」が行われました。

国体の本大会には、埼玉県からは関東ブロック大会の狭き門を突破した成年女子及び少年男子が出場しました。少年男子は決勝進出のための同中競射をする等健闘しましたが、遠的及び近的ともに惜しくも予選を通過することは叶いませんでした。成年女子の遠的では見事予選を通過して、トーナメントも勝ち上がり準決勝で惜しくも敗れて、第4位入賞となりました。

私は審判員として、成年男子及び成年女子の遠的、近的の両競技を担当しました。特に今回は、競技副審判長としての役割でしたので、競技全般を見ることができました。その中で感じたことは、次の通りです。

① 選手のレベルの高さ

成年男子の近的決勝トーナメントは全部で7試合行われましたが、12射10中で敗れたチームは4チーム(4試合)ありました。11中以上の中しないと勝てない、即ち3人で1本しか外せないというハイレベルな、厳しい大会でした。

② 選手構成の難しさ

あるチームの選手3人の構成は、参段、弐段、五段で年齢的にも若い人達でした。そのチームが近的予選1回目で12射皆中を出してしまし

たので後半も期待しました。ところが、予選2回目、決勝トーナメントにおいては、半矢がやっという成績でした。予選第1回目の成績がかえって重荷になってしまったのではないかと思います。選手の中に、もう少し年配の選手が入っていたら展開は変わっていたかと思いました。チーム編成は非常に難しいものです。

③ 土台の重要性

足踏み、胴造りをきちんと整えて土台をしっかり構築している選手が多かった。その上に各節を基本に忠実に重ねて会に至り、離れでぶれる様な人はほとんど見当たりませんでした。基本に忠実な安定した射が多くみられました。

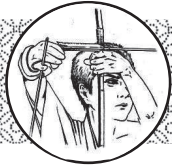
④ 馬手の使い方

会において詰合い、伸び合いをしっかりと行い、胸郭から大きく開く射が多くみられました。その意識が強いために、馬手は大きく鋭く飛び勢いのある矢が多くみられました。

これらのことを、来年以降の国体選手育成強化の参考にしたいと思います。

国体運営には計画の作成、役員の確保及び錬成等長期に亘る膨大な準備が必要です。今回は更にコロナ感染防止対策も加わり、栃木県弓道連盟の会員の皆様のご負担はいかばかりかと思いました。そのような状況にもかかわらず、大会は連日ほぼ計画通り進行しました。会員の皆様の大会を成功させようという強い意志、強固な連帯感が感じられました。

来年度は、埼玉県が主管となって国民体育大会関東ブロック大会が開催されます。コロナはいつ収束するのか、国体関東ブロック大会の頃にコロナ感染はどのようになっているのかは全く読めません。我々は最悪の事態を考慮して準備し、一丸となって大会に臨みたいと思います。皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。



専門委員会だより

総務委員会

IT事務所の変遷と業務内容

委員長 竹内せき子

現在の埼玉県浦和合同庁舎に IT 事務所を構えたのは、平成 16 年(2004)の7月のことでした。

全日本弓道連盟システム化の始まりにより、私は故天野錦蔵先生のもとでデータベース作成などのお手伝いを自宅で行っていました。当時 IT 事務所長は百名朝應先生でしたが、先生は間もなく埼弓連を去られ、そのあとを受けて事務所通いがスタートしました。

何もわからず、暗中模索の日々が続き、頭の中はいつも IT 事務所のことです。

その頃は審査業務と会員管理業務とが分かれていて、一台の PC を時間をずらしながら使用していたこともあり、気付けば外は真っ暗ということも多々ありました。

現在では大型モニターの PC が 3 台、プリンター 2 台、そしてメンバーも 5 人に増やして頂き、多くの業務や、データの保存化などが可能となり、IT 事務所としての機能が安定してきたことにホッとするとともに、IT 事務所を支え、一緒に歩んでくれたメンバーに心から感謝しています。

平成 16 年にデータベース化、そのとき登録のあった会員全員に ID 番号が採番されました。

当時まだ、会員の皆様には ID 番号と言うものに馴染みが薄く、情報の収集や間違いを修正するのに多くの時間とエネルギーを費やしていましたが、あれから 18 年が経ち、今ではすっかり定着した ID 番号(※)。

これがあることで、膨大な審査業務や、競技の立順表、講習会名簿もスムーズに提供することが出来るようになりました。

しかし、ID 番号 7 桁は、一つの数字が違っただけで全くの別人が出てしまいます。

それに同姓同名も少なくありませんので、競技や講習会の申込は「ID 番号」+「氏名」を組み合わせ個人を特定することにしています。

現在、全日本弓道連盟の会員 ID 番号は、上 3 桁が 1780000 となっています。

(※ ID 番号は自動採番で、一度取得した番号は退会 / 再入会しても一生変わりません)

IT事務所受託業務

- ☆審査委員会
受審者名簿や立順表の作成、合格者登録など
- ☆競技委員会
競技用ソフトで立順表を作成
- ☆指導委員会
講習会名簿の作成
- ☆女子部
女子大会プログラム作成
- ☆総務
業務用会員名簿作成 (2年に1回)
弓道人口調査 (毎6月末)
長寿表彰者の割り出し (毎2月頃)
- ☆情報開示
毎6月末と11月末

会員情報管理

- | |
|-------------------------------------|
| 1、新規登録・再入会・登録内容変更・退会・移動等の入力と報告 (随時) |
| 2、県連会費の納入記録 (随時) |
| 3、高校卒業生の一斉削除 (年度2月) |
| 4、未納会員の一斉削除と報告 (年度末) |
| 5、未登録者の報告 (随時) |
| 6、大学生の情報確認 (5月中旬) 各担当者宛 |

メールの処理

- | |
|--|
| 1、全弓連及びその他からのメールを転送
会長 理事長 副理事長 審査委員長
競技担当者 指導担当者など・・・ |
| 2、問い合わせ
電話などでの問い合わせは基本事務所で対応
メール等での質問等は理事長に転送 |

備品の購入と管理

- | |
|--------------------------|
| 1、PC、コピー機などの機器購入 接続・設定 |
| 2、消耗品の購入(インク、コピー用紙、文具など) |
| 3、PCセキュリティの更新 |
| 4、備品故障などの対応 |
| 5、備品の購入と備品台帳の記録 |
| 6、備品の貸出、及び備品貸出簿の記録 |

お願い

なるべく IT 事務所に居る時間を増やすようにして、電話対応など心掛けておりますが、繋がらないときは留守電にメッセージを残すか、メールでのお問合せをご利用くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

指導委員会

指導目標

委員長 飯島千代子

コロナ感染状況は、何時になったら安心できる日常生活になるのでしょうか？

この状況の中、県連講習会は三密を避けながら、予定通りに進んでおります。

9月3日から23日まで、6回にわたり伝達講習会を開催いたしました。申し込まれて受講できない方もおりますが、多方面から考えて平等になるよう委員会で人選しております。

どの講習会も昨年作成した各道場別の整列等の配置図により、規律のある運営ができていたようでした。これまで通り、しっかりした感染対策をして講習会を実行したいと思っております。

今年度伝達講習会主要項目

- 1 教本を基準とする
- 2 無限の引き分けを目指す
- 3 身体の中から離れを出す

この項目に則り、本橋民夫・浅野有三・岡田義助・飯島千代子を中心に指導委員と、関東北指導者講習会参加者を加えてそれぞれの会場で行いました。コロナ対策で最近の矢渡は射手のみでしたが、今回は正規の形で行い、介添講習もできて有意義だったと好評でした。

又、この講習会は【コーチ1】資格取得免除講習会対象で数名の参加者がおりました。

今年の全日本選手権大会で採点審判委員を仰せつかりました。審判委員長の訓示に「丹田から、矢筋への張り合いがあり縦横十文字が正しく構成され、発射の機が熟すまで持満を保持しているか、評価してほしい」とありました。

予選決勝各選手とも、同じようでの深い素晴らしい射を表現してくれました。

指導目標の三項目は、全日本選手権に通じるものでありました。教本の教えを基準にし、無限の引き分けの末、体の中心から爆発するような離れを目指してください。

指導者講習会・地域社会講習会・指導委員会研修会がこの先にあります。より良い指導ができるよう頑張ってください。

よろしく願いいたします。

競技委員会

コロナ禍での大会

委員長 市川 政子

会員の皆様には日頃より大会への参加およびご理解ご協力を頂きありがとうございます。

コロナ禍での大会は一度に多くの参加者を集合させることが出来ず人数制限をして実施して参りました。順位決定の方法も「的中記録を射詰めに見立て先に失した方を下位とする」として決めています。最初の一手が的中しないと上位入賞の可能性が低くなりますので、1本目から真剣に挑んでください。遠近競射も的中心から矢の着点までの距離を測り記録をしておきます。選手の皆さんの滞在時間をなるべく少なくする為にスムーズに進行できるよう努力しています。コロナ感染対策については各部署でそれぞれがアルコール消毒・手袋着用等で気を配っています。

大会のたびに選手皆さんの行射の様子を拝見しています。競技の間合いでも体配はきちんと行ってください。また退場の掛をして敷居を越える前に執り弓の姿勢を崩す方を多く見かけますので最後までしっかりと行ってください。

大会での成績が良ければそれでよし。しかし成績が悪かった時は今日はここがダメだったと反省し次の大会では失敗しないように練習をしながら努力を重ねていく、次に繋げる、その繰り返しです。基本に戻り練習を続けていれば新たな気づきがあるかもしれません。目標に合わせて自分のペースで無理なく練習に励んでください。尚、大会参加にあたり体調が少しでも悪ければ休んで頂きたいと思っております。健康チェックシートを持参されない方が多くなりました。引き続き提出をお願い致します。

コロナ感染者が激増の7月に東京で国体関東ブロック大会が開催され埼玉からも9名の役員に視察に行ってもらいました。コロナ感染が非常に心配される中、ありがとうございます。視察で得た様々な情報を埼玉での関東ブロック大会の開催に向け役立てて参りたいと思っております。

国体選手強化委員会

いちご一会栃木国体

委員長 古泉 利昭

コロナ感染症流行のため鹿児島国体、三重国体が2年続けて中止となり、今回の国体もまだ全国でコロナの第7波が猛威を振っている状況の中、9月10日から4日間の日程で「いちご一会栃木国体」の弓道競技が宇都宮市のユウケイ武道館弓道場で開催されました。

ここは昨年三重国体の関東ブロック予選会が行われた場所でしたが、コロナ感染者数が昨年より大幅に増えていることもあり、昨年より更に厳重な感染対策が行われていました。

応援の方と選手・スタッフが交わらないように柵などの仕切りで分離されて、ちょうど東京オリンピックのバブル方式の縮小版でしょうか。お土産屋さん等も外側の応援者用と内側の選手スタッフ用に分けて同じ店を出店していました。

また館内では、受付での部外者や感染者の厳重チェックをはじめ、会場内で入場する選手と退場する選手の歩く動線が重ならないように考慮された控えの間仕切り、広い選手の控えなどこちらにも十分に対策が配慮されていました。

さらに栃木に入県する選手やスタッフは、入県前5日以内に行うPCR検査、入県してからも期間中2回の抗原検査が義務付けされるなど主催者側の感染予防にかける決意が感じられるような大会でした。

さて、そのような環境下で行われた大会ですが、埼玉は、関東ブロック大会を勝ち抜いた、少年男子と成年女子の2チームが出場しました。

少年男子は残念ながら近的、遠的の部ともに予選通過がなりませんでしたが、近的では4チーム中2チームが決勝トーナメントに進める同中競射まで残る健闘ぶりでした。

また成年女子は、近的は予選通過がなりませんでしたが、遠的の部で同得点3チームの内的中数で決勝トーナメントに進める2チームの中にギリギリ入りました。

そして8チームで行う決勝トーナメントの1回戦で岐阜県を破り準決勝に進みましたが、そこで栃木県に敗退、千葉県との3・4位決定戦の結果、見事第4位に入賞しました。



今回も1本の中が結果を大きく左右するということを思い知らされた大会でしたが、選手やスタッフの皆さんは、連日暑い日が続き、コロナ対策でいろいろな制約がある中よく頑張ってくれたと思います。

ます。

それから、会場まで駆けつけてくださった方々はじめ会員の皆様には絶大なる応援をいただきました。本当に有難うございました。心よりお礼申し上げます。



審査委員会

実施状況と今後の課題について

委員長 齋藤 安次

●令和4年度の審査会実施状況について

コロナ禍も3年目となり、今年は第6・7波の感染者数のピークを経験し、「過去最多」の言葉を耳にしてきました。一方で社会活動は、感染拡大対策から経済復興対策に舵が切れコロナ感染が終息したかのように錯覚する事態になっています。審査会運営をとおして、これまでに感染症と向き合い多くのことを学びました。ご協力いただいた皆様に支えられながらコロナ禍を乗り越えられたことに感謝申し上げます。

さて、今年度の地方審査会申込状況をコロナ禍前（2018年度）と比較するとほぼ同じ受審者数になることが確実になってきました。

【一般】では第6回迄の申込人数は915名で、第7回は過去の実績から推定すると335名で合計1,250名になります。2018年度実績は1,125名でした。

【高校】では第5回迄の実績で1,319名、第6回は推定値で250名、合計1,570名になります。2018年度実績は1,625名でした。

地方審査会（一般・高校）の受審者数は今年度2,820名（推定）で、2018年度と比較すると70名増になります。

県連主管の連合審査会は、334名で2018年度と比較すると22名増でした。しかし、県外を含む連合審査会全体としては、615名の参加で、東京の第4回の審査申込人数（推定100名）を加えると、合計715名になります。2018年と比較すると42名減になります。これはコロナ感染第6波の影響から県外審査会を受審する希望者が減ったためと思われます。

中央審査会は全国の開催回数が27回で2018年度と変わりませんが、現在の受審者数554名と、未受付の名古屋と四国（推定100名）を合わせると654名になり、2018年度の58%に留まりそうです。

以上のことから県内での受審者数は堅調に推移しているものの、遠方での審査会（連合・中央）への参加は慎重になっていたものと考えられます。来年度は人の往来での行動制限解除や

経口抗ウイルス薬が期待されることから、各地区へ出向く受審者が増えてくると考えています。

●新しい取り組みについて

埼玉県内には高校が公立・私立合わせて194校が存在し、89校に弓道部があります。（2019年度）その中で埼玉県弓道連盟の会員になっている生徒は1,500名を超えています。

弓道は誰でも簡単に始められ、生徒から人気の高い武道と言われています。部活顧問の先生からは、大会で上位の成績を収めたり、昇段試験に合格させるために専門的な知識と技能を高めたいとの要望がありました。

県連として、高等学校の弓道部活動において、学校での弓道指導者について指導上の課題を研究協議し、指導者の育成と資質の向上を図り、段位取得することを目的として講習会・審査会を実施しました。

審査会は初めての試みでしたが、後日参加者からは、「実践的な指導を受けたことで生徒の指導に役立てることができた」「段位取得の機会を得られて満足した」「四段の審査までやって欲しい」等、ご意見を頂きました。今後は関係者とも相談の上、善処して参ります。

●その他（施設借用・学科試験の課題）

コロナ感染が終息しても今の運営方法を継続したいものは、①時間を区切った分散受付。②発表は後日。③学科答案の事前提出。この三点を継続することで施設借用の最小化、受審者の拘束を短時間で済ますことができます。

③の学科試験については、問題が事前に分かっていることから、教本・参考書を見ながら答案作成ができます。もともと学科試験は教本を理解し、それを基に修練することが目的です。勉強した成果を答案に生かして頂ければ学否になることはないと思います。行射が満点で学科が60点未満で不合格になる人がいます。弓道を極めるために文武両道で稽古に励んで下さい。

●まとめ

審査会事業は公益財団法人全日本弓道連盟が主催し、埼玉県弓道連盟が主管する一大事業になっています。日々稽古を重ねる会員の皆様がモチベーションを高く保てる事業の一つとして審査会があると承知しております。今後も受審者ファーストに立った運営を心掛けて参りますのでご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

女 子 部

幻の夏の女子大会

女子部長 松澤かおり

日頃より女子部の活動にご理解・ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

前号の埼玉連だよりでお知らせいたしました通り、今年度の女子大会は大宮公園弓道場の改修工事に伴う県連事業の日程調整のため7月下旬に開催されることとなり、初めての夏の大会ということで例年とは少し勝手が違うことが予想されるため、早い時期からミーティングを開き準備を開始いたしました。運営と参加者を完全に分割するコロナ禍仕様の開催については昨年経験しておりますので、反省点を改善して更にスムーズな運営を目指すことといたしました。真夏の開催ではこれと併せて暑さ対策も考える必要がありますので、審査会や他の競技会を参考にさせて頂きながら熱中症や感染症に対する対策を講じて安全な運営に努めることと致しました。例年よりも様々なリスクが多くなることが明らかであるため、準備もより慎重により厳重に進めるようにいたしました。このような厳しい内容の話し合いの中でも賞品に関する話では、夏の大会らしくスイカやメロン等の水菓子にしようか、やはり喉ごしの良いゼリーの方が良いのではなどと楽しく和んだ場面もありました。

6月20日に受付が終了し、昨年191名を上回る228名の申込みをいただき、ますます身が引き締まる思いを感じつつ7月5日に最終ミーティングを終えて、各自が直前の準備に入ろうかという所で急激な感染拡大の波が押し寄せてきて、埼玉でも7月15日には6,000人近くまで新規感染者が増加したため、安全を第一に考え中止の決断をいたしました。

大会を楽しみにして下さっていた皆様には大変申し訳なく思っております。女子部委員としては実施するばかりのところまで準備を詰めてきたものを実行できずに残念な結果となりましたが、前回とは違う経験を積めたことを今後活かしてもらいたいと思います。幻となってしまった夏季女子大会ですが、いつか開催される機会に恵まれました時には、皆で汗だくになって大いに楽しみたいと思います。そんな日を心待ちにしています。

高 体 連

令和4年前半を振り返って

委員長 坂本 修

日頃より弓道連盟の皆様には、高体連弓道専門部の活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

新型コロナが収束しない中ではありますが、今のところ予定どおりに行事を進めております。今年度に入り、公式大会参加要件が緩和されてきており、昨年度に比べると不参加になってしまったというケースは少なくなりました。観客については、条件付きで認められるようになりましたが、弓道場の観客席の狭さや役員不足により、現在も無観客で開催しています。ただ、大会を見たいという声が多いということもあり、動画配信サービスを利用してのリアルタイムの動画配信および記録速報の配信を実施しています。配信を一手に引き受けている事務局の先生方には、感謝の言葉しかありません。

上位大会の結果ですが、6月に行われました関東大会では、男子団体で川越高校が昨年度に引き続き優勝、県立浦和高校が第3位に入賞いたしました。また、女子個人では栗橋北彩高校の武蔵選手が見事優勝いたしました。

7月には国体関東ブロック大会が開催され、女子は健闘したのですが残念ながら通過できませんでした。男子が見事1位通過しました。9月に開催された本国体は残念ながら入賞にはなりませんでしたが、様々な制約の中、よく最後まで頑張ってくれました。

9月には関東個人選抜が開催され、女子で栗橋北彩高校の鈴木選手が4位に入賞しました。

8月11日～12日に高校顧問研修会が開催されました。昨年度は1日のみの開催でしたが、今年度は1日半の開催で、2日目の午後には初段～参段までの審査が行われました。当日講師を務めていただきました本橋民夫先生、北原きい子先生、松澤かおり先生に対しまして、この場を借りまして、厚くお礼を申し上げます。

<大会結果>

●関東大会県予選

令和4年4月16日(土)18日(月) 県立武道館
女子 145 チーム 443 名
男子 136 チーム 416 名

○女子団体／①大宮光陵A(佐藤帆菜、中村優里、杉下花恵、高堂桜佳)、②滑川総合A(土屋花梨、伊藤瑠奈、桑原由美香、山下ハルミ)、③与野B(糸川こころ、川島涼花、田中千尋、佐伯陽香)、④栗橋北彩A(小池舞美、鈴木麗恋、武蔵穂乃花、高橋杏実) ※女子団体4位まで関東大会出場

○男子団体／①川越A(浜野隼輔、太田将哉、高河勇太、関口陽太)、②坂戸西A(関口雄介、鎌田琉希、梅本恒恭、大杉 遙)、③秩父A(小池英仁、田島 尊、加藤琢磨、町田 慎)、④浦和A(加瀬桜大、岡田理杜、坂田和也、鈴木晶太郎)、⑤深谷第一A(吉田大地、大沢紘人、前原伊吹、大井涼蒼) ※男子団体5位まで関東大会出場

○女子個人／①椿 瑠依(春日部女子)、②及川葉里(越ヶ谷)、③土屋花梨(滑川総合)

○男子個人／①末松 伸(東京農大三)、②岩崎照英(東京農業大三)、③金澤翔成(入間向陽)

●高校遠的選手権大会

令和4年5月4日(水) 県立武道館

○男子個人／①馬淵 誉(伊奈学園総合)、②太田将哉(川越)、③小林康介(伊奈学園総合)

○女子個人／①高坂桜空(坂戸西)、②菊地優里那(草加西)、③早稲田麻綺(秩父農工科学)

●第66回関東高等学校弓道大会

令和4年6月3日(金)～5日(日)

海老名運動公園総合体育館特設弓道場

○男子団体／①川越(浜野隼輔、太田将哉、高河勇太、金井塚 渉)来年度推薦出場、③浦和(加瀬桜大、岡田理杜、坂田和也、小平懐世)

○男子個人／⑧太田将哉(川越)

○女子個人／①武蔵穂乃花(栗橋北彩)



●高校総体県予選

令和4年4月30日(土)、6月10日(金)11日(土)18日(土)

大宮公園、県立武道館、日高市文化体育館、熊

谷運動公園 男子70チーム1,154名

女子72チーム1,385名

○男子団体／①川越(浜野隼輔、太田将哉、金井塚 渉、木川嘉隆、高河勇太、歌代 温、松本花陽)、②深谷第一(吉田大地、大沢紘人、尾高翔輝、前原伊吹、門倉千寿、高田凌晟、志塚爽以)、③伊奈学園総合(小暮功星、有永雅久、小林康介、坂元広大、馬淵 誉、小林淳哉、関根英瑠麻)、④坂戸西(関口雄介、石崎 孟、鎌田琉希、川端歩武、梅本恒恭、宮下雄琉、小林 諒)

○女子団体／①草加西(菊地優里那、菊地明理、森川樹梨、浅野 睦、大山蒲公英、高島小羽音、藤城ひな)、②坂戸西(北島 花、高坂桜空、清宮有莉、山岸佳世、細田さくら、橋爪愛結、篠原千尋)、③伊奈学園総合(林 由羽、大山さくら、高倉桃伽、富樫春菜、本橋優愛、村山明里、宗像爽音)、④大宮東(矢部陽菜、板垣美結、並木瑠依、福田結菜、亀田結以、杉田帆南、三浦郁美)

○男子個人／①太田将哉(川越)、②浜野隼輔(川越)、③関口雄介(坂戸西)④荒川瑛大(東京農大三)⑤馬淵 誉(伊奈学園総合)⑥上田海斗(与野)⑦加瀬孝太郎(大宮南)⑧渡邊海生(鳩ヶ谷)

※3、4位が本大会出場

○女子個人／①菊地優里那(草加西)、②武蔵穂乃花(栗橋北彩)、③森川樹梨(草加西)④松本佳暖(東京成徳深谷)⑤青木萌恵(所沢北)⑥佐藤 結(狭山ヶ丘)⑦小澤結芽(川越工業)⑧北島 花(坂戸西) ※2、4位が本大会出場

●第77回国体関東ブロック大会

令和4年7月30日(土)31日(日)

明治神宮至誠館弓道場、全日本弓道連盟中央道場

○少年男子／太田将哉(川越)、金井塚 渉(川越)、馬淵 誉(伊奈学園総合)、監督山田尚子(伊奈学園総合)、コーチ新山哲史(川越)、コーチ山崎康太(大宮武蔵野 女子も兼任)

○少年女子／菊地優里那(草加西)、高坂桜空(坂戸西)、北島 花(坂戸西)、監督古岡大路(坂戸西)、コーチ蓮見勇人(草加西)

少年男子 近的3位 遠的1位 総合1位

少年女子 近的6位 遠的4位 総合5位

※男子本大会出場権獲得

●第 67 回全国高校総体

令和 4 年 8 月 6 日（土）～ 9 日（火）
とくぎんトモニアリーナ特設弓道場 入賞なし

●高校顧問研修会

令和 4 年 8 月 11 日（木）～ 12 日（金）
県立武道館 参加 27 名



●関東個人選抜県予選

令和 4 年 8 月 24 日（水）～ 25 日（木）
県立武道館 参加：女子 429 名、男子 413 名
○女子個人／①菊地優里那（草加西）、②鈴木麗恋（栗橋北彩）、③藤城ひな（草加西）、④奥山結衣（秩父農工科学）、⑤酒巻心（熊谷商業）、⑥草岡美波（川越総合）、⑦上田優真（東

京成徳深谷）、⑧石井綾（熊谷女子）、⑨野口藍伽（大宮光陵）、⑩大澤綾子（東京成徳深谷）、⑪藤木笑（草加東）、⑫大當彩心（飯能）
○男子個人／①篠崎勇希（狭山ヶ丘）、②関口雄介（坂戸西）、③長尾英雄（所沢北）、④栗原敦之（入間向陽）、⑤小林諒（坂戸西）、⑥鈴木晶太郎（浦和）、⑦金井暖（浦和東）、⑧関優斗（草加東）、⑨亀田将（春日部）、⑩山元雅之（坂戸西）、⑪富張友太（浦和西）、⑫萩谷凌多（所沢北）

●第 40 回関東個人選手権選抜大会

令和 4 年 9 月 3 日（土）4 日（日）
明治神宮至誠館第二弓道場
○女子個人／④鈴木麗恋（栗橋北彩）

●第 77 回国民体育大会

令和 4 年 9 月 10 日（土）～ 13 日（火）
ユウケイ武道館弓道場
○少年男子／太田将哉（川越）、金井塚涉（川越）、馬淵誉（伊奈学園総合）、監督山田尚子（伊奈学園総合）、コーチ新山哲史（川越）、コーチ山崎康太（大宮武蔵野）

大会・射会入賞記録

●第 73 回全日本弓道大会

令和 4 年 5 月 2 日（月）、3 日（火） 京都市勧業館「みやこめっせ」
○教士の部：4 位入賞 鹿野信恵（越谷）
決勝進出 教士の部：鹿野信恵、中島美佐子（大宮）、有段者の部：フビジエンヘザヤ（記念）

●第 34 回埼玉県実年者弓道選手権大会 兼 全国健康福祉大会（ねんりんピック）県連予選会

令和 4 年 5 月 9 日（月） 埼玉県立武道館 参加 87 名
○埼玉県実年者弓道選手権大会：①渡辺由紀子（富士見）
②初田富士夫（桶川）③蓮見文子（駒場）④谷川俊治（狭山）⑤下田徹（所沢）
○ねんりんピックさいたま市代表：①善当勝俊（駒場）
②中島英一（大宮）③廣川哲次（駒場）④小日向勝美（駒場）⑤井田晴久（大宮）⑥馬目幾世（大宮）⑦蓮見文子（駒場）監督：浅子好夫（大宮）
○ねんりんピック埼玉県代表：①増渕政行（杉戸）②初田



富士夫（桶川）③坂東富士夫（日高）④新井竹夫（富士見）⑤西崎明伸（入間）⑥渡辺由紀子（富士見）
⑦小川幸子（越谷）

※上記のねんりんピック代表選手は、11月12～14日に神奈川県秦野市で行われる全国健康福祉大会（ねんりんピック）弓道交流大会に出場

●埼玉県弓道選手権大会（称号者の部）

令和4年5月21日（土）埼玉県立武道館 参加97名

①高木 渡（狭山）②中島美佐子（大宮）③坂東 文（日高）④青木 豊（行田）⑤生方美代（記念）
◇全弓連会長盾／西崎明伸（入間）

●埼玉県弓道選手権大会（有段者の部）

令和4年5月22日（日）埼玉県立武道館 参加102名

○三段以下の部：①大塚俊雄（志木）②小川 哲（川口）③富澤英明（川口）④飯塚さくら（ふじみ野）
⑤山寺 光（越谷） ○四・五段の部：①新里 陵（久喜）②内藤今朝雄（上尾）③島田 勲（小川）
④田辺智子（岩槻）⑤千葉秀明（毛呂山）◇全弓連会長楯／内藤今朝雄（上尾）

●第69回全日本勤労者弓道選手権大会

令和4年6月11日（土）、12日（日）全日本弓道連盟中央道場、明治神宮至誠館弓道場

○2位 ホンダ埼玉Aチーム（伊藤隆司、古賀元浩、和田秀之）

●第34回埼玉県弓道遠的選手権大会

令和4年7月2日（土）埼玉県立武道館 参加69名

◎五段以上／○男子：①藤井健人（松伏）②飯尾 弘（所沢）③吉澤喜芳（啐啄）

○女子：①吉澤郷美（啐啄）②篠原妃誉（ふじみ野）③須田明江（入間）

◎四段以下／○男子：①山寺 光（越谷）②町田智行（岩槻）③木村鷹四郎（桶川）

○女子：①石井千尋（上尾）②清住洋恵（所沢）③田辺智子（岩槻）◇総合優勝：藤井健人（松伏）

※男子：吉澤喜芳（啐啄）、西岡謙一郎（深谷）、女子：吉澤郷美（啐啄）、須田明江（入間）

以上の選手は、第73回全日本弓道遠的選手権大会（全弓連中央道場）令和4年10月29・30日に出場

●第21回明治神宮崇敬会全国弓道大会

令和4年7月10日（日）明治神宮至誠館弓道場 参加33チーム、個人109名

○団体戦／優勝：埼玉県Jチーム（吉田治弘、川合儉司、小島修治）（全員大宮）

／敢闘賞：埼玉県Bチーム（中島幸子、小澤伸江、荒井 渉）（全員大宮）

○個人戦／三段以下の部：③北野達夫（駒場）④関口純子（所沢）／四・五段の部：④千葉秀明（毛呂山）⑤関口研二（所沢）／称号の部：③池田浩次（大宮）④小澤伸江（大宮）

◇特別賞：池田浩次（大宮）



●第77回国民体育大会関東ブロック予選会

令和4年7月31日（日）全日本弓道連盟中央道場、明治神宮至誠館弓道場

◎少年男子／監督：山田尚子（伊奈学園総合）、コーチ：新山哲史（川越高）、山崎康太（大宮武蔵野高）

選手：太田将哉（川越高）金井塚 渉（川越高）馬淵 誉（伊奈学園総合）

◎成年女子／監督:吉澤和代(小澤道場)、選手:小野千絵美(記念)、田辺智子(岩槻)、篠原妃誉(ふじみ野)
※第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」出場 9月10～13日、栃木県総合運動公園ユウケイ武道館

●全日本弓道選手権大会関東ブロック予選会

令和4年8月6日(土) 千葉県総合スポーツセンター弓道場 60名参加

◎全日本弓道選手権出場選手／○男子:和田秀之(啐啄)選出
参加選手:宮崎正範(吉川) 清水繁子(岩槻) 市川政子(入間)

●第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」

令和4年9月10～13日 栃木県総合運動公園ユウケイ武道館弓道場

◎少年男子／監督:山田尚子(伊奈学園総合)、コーチ:新山哲史(川越高)、山崎康太(大宮武蔵野高)、
選手:太田将哉(川越高) 金井塚 渉(川越高) 馬淵 誉(伊奈学園総合)
◎成年女子／監督:吉澤和代(小澤道場)、選手:小野千絵美(記念)、田辺智子(岩槻)、篠原妃誉(ふじみ野)
◇成績:成年女子 遠的4位入賞

●第60回埼玉県勤労者弓道選手権大会

令和4年9月19日(月) 埼玉県立武道館 95名(32チーム)参加

○団体の部:①春日部C(松井啓介、今野貴稔、染谷幸夫) ②ふじみ野A(坂井孝嘉、坂井奈巳、篠原妃誉)
③小川(伊藤謙吾、齊田恵子、安野雄次) ③日高B(篠原和子、中山政子、相澤ゆかり)
○個人の部:①今野貴稔(春日部) ②西岡謙市朗(深谷) ③篠原妃誉(ふじみ野) ④安野雄次(小川) ⑤坂
井孝嘉(ふじみ野) ⑥木所隆明(岩槻) ⑦関口尚人(熊谷公園) ⑧染谷幸夫(春日部) ⑨大垣朋子(久喜)
⑩島田 勲(小川)
◇技能賞:西岡謙市朗(深谷)

●第35回埼玉県民総合スポーツ大会【弓道競技一般の部】

令和4年9月25日(日) 埼玉県立武道館 77名参加(26チーム)

※今年度、近的のみ

○近的団体:①川口市(加藤徹也、矢島美穂、村永政志) ②桶川市
(岩崎康夫、初田美代子、初田富士夫) ③川越(濱里史明、榎本
博、瀬戸達雄)
○近的個人:①高荷國男(熊谷市) ②安野雄次(小川) ③宮崎正範
(吉川市)

●第73回全日本男子弓道選手権大会

令和4年10月1日(土) 伊勢市神宮
弓道場

出場選手:和田秀之(啐啄)



画・松本 正



↑
←
埼玉県民
総合スポーツ大会



秩 父 支 部

支部長 町田 文利

With コロナへ

支部長 町田 文利

今年の夏は異常に速い梅雨明け宣言に始まり、猛暑日が連続したかと思うと各地で局地的な豪雨による災害が発生したりと異常気象に見舞われ、また新型コロナウイルス感染第7波に翻弄された夏でした。秩父地方でも7月上旬から子供達を中心に急激に感染拡大が始まり、身近な人が感染するのを見ていると今までになく危機感を感じました。

しかし、昨年までと違うのは、感染対策を行いながら社会活動を継続してゆくという「With コロナ」の考え方に社会全体が移行しつつあると感じています。行事の運営は依然として感染状況を見ながらその都度対応を決めていく方法を取らざるを得ないのが実際ですが、これが長く続くと特に年齢層の高い秩父では参加意欲が減退してしまうことがもっとも危惧されます。弓から遠ざかることなく精神的な活力を維持できるよう、各道場内でも工夫して頂きたいと思えます。

<競技・講習会>

●第1回支部カップ戦

令和4年5月15日(日) 秩父市第1弓道場

参加92名

- 中学生：①井上亜優②寺岡大輔③船水遼香
- 高校男子：①渡邊涼司②金原 陸
- ③常木湊太
- 高校女子：①荒井結音②山崎碧咲③高野 桜
- 一般男子：①若林武司②丸山 彰③町田孝之
- 一般女子：①嶋田みゆき②井上美根子
- ③野原典子

●第2回支部カップ戦【中止】

令和4年7月23日(日) 秩父市第1弓道場

●第3回支部カップ戦(近的・遠的選手権)

令和4年8月21日(日) 秩父市第1弓道場

参加26名

- 近的一般男子：①若林武司②清水慶一

- ③黒沢 誠
- 近的一般女子：①大野きみ②嶋田みゆき
- ③瀬戸美代子
- 遠的：①丸山 彰②守屋 豊③井上美根子

●秩父郡市高等学校弓道大会(四高戦)

令和4年9月23日(金) 秩父市第1弓道場

参加47名

- 団体：①秩父農工科学高校男子Aチーム
(渡邊涼司、引間達哉、久保田 恋)
- ②秩父農工科学高校男子Cチーム
(垣塚 陸、北堀祐成、富田修平)
- ③秩父農工科学高校女子Bチーム
(江川愛里、奥山結衣、川合菜花)
- 個人男子：①引間達哉(秩父農工科学高校)
- ②西 智也(秩父農工科学高校)③黒沢良太郎(秩父高校)
- 個人女子：①加藤聖菜(秩父農工科学高校)
- ②上布弥梨亜(秩父農工科学高校)③江川愛里(秩父農工科学高校)

●支部四段以下講習会

令和4年9月4日(日) 秩父市第1弓道場

参加11名 講師：秩父支部指導委員

●昭和祭併埼玉県下武道大会奉納演武奉告祭

令和4年4月29日(金) 昭和の日 秩父神社

コロナ禍の影響で大会は行わず、秩父神社本殿での祭典ののち、境内神楽殿において弓道、剣道、柔道の奉納演武が行われました。

午後には「武道における人間形成」と題して関西大学国際部教授 アレキサンダー・ベネット先生による講演会が行われました。



本橋会長による巻藁射礼

県北支部

支部長 高橋 久雄

支部内のいま

支部長 高橋 久雄

令和4年度、県北支部では、感染防止対策（人数制限／マスク着装／換気等）を施し、各行事を開催しています。しかしながら感染対策が充分できないことから、行事を中止している道場もあるようです。そこで各道場の現状をお知らせします。

◆熊谷運動公園弓道会 会長 手嶋照晃
感染対策を施し、ほぼ例年通りに戻している。

○射会：昨年予定していた道場開設30周年記念射会を30+1年として今年9月4日に実施。熊谷市総合体育大会を10月2日（高校生は10月10日）に、時間を2回に分けて開催した。また月例会は毎月実施している。

○弓道教室：春5～6月、秋9～11月いずれも（火・金）・（水・土）の二部制で開催している。

◆熊谷市武道館弓道会 大庭明夫
各自の練習はできています。

○射会：残念ながら、コロナ対策のため道場内での射会は実施していません。

○弓道教室：今年度、春季参加者は14名、秋季参加者は9名となっています。

◆行田市弓道連盟 会長 樋口和広

○初心者教室：5月8日～6月12日までの日曜日計6回で開催しました。受講生は6名 現在5名が継続して練習しております。

○射会：月の月例射会は計画通り実施しております。今後も納射会、108射会、新年射会においても実施予定です。10月に予定していた行田市市民体育祭弓道大会は体育祭そのものが市の方針で中止となり、残念ながら本年も中止と致しました。

○月1回のペースで当連盟会員対象に射技指導や介添え、失の処理等の講習を実施しております。

◆吹上弓道会 会長 小島 隆

○稽古：平日午前中は4、5名。土日は増えて

10名程度。

○射会：5月と7月に会での射会を実施。10月にも行う予定。毎月の月例会も休まず実施。招待射会はできなかったが、ほぼ例年通りの活動ができている。

◆寄居弓道連盟 会長 秋山雅成
7月より、金・日を除き使用できるようになりましたが、以前のような使用状況にはなっていません。従いまして、射会や弓道教室等は一切実施しておりません。

◆深谷市弓道連盟 西岡謙一郎
○コロナ対策を徹底して、初心者弓道教室と市民弓道大会を開催。

○11月の高校審査に向けて弓道教室を予定！

◆羽生市弓道連盟 鈴木洋晃

○射会：毎年吹上と合同で9月にコスモス射会を行っていましたが、コロナの影響で中止。

○弓道教室：毎年GWに開催の所、秋に変更して開催する予定でしたが、結局中止としました。いずれも待機場所や道場が狭いなど、感染対策が十分に行えないことが理由です。

◆本庄市弓道連盟 会長 中島 勇

○月例会：一堂に会することはせず、3～4回に分けて実施しています。賞品は、お花です。

○弓道教室：午前6名・夜間11名で、教室卒業後の10月から6名の新規入会がありました。

◆鴻巣市弓道連盟 会長 設楽謙二

○射会：密を避け、午後から2グループに分けて人数制限して立射四矢2回で、矢渡、納射無しで実施しています。

○初心者弓道教室：毎土曜9時半から2時間の8回開催、また会員になった人に対し継続4回実施し8月で終了した。今年は8人受講し5人入会。教室は全て立射で、指導は4人体制で必ず女性が入り、安全に十二分に注意して、なるべく難しい言葉を使わない様にして指導を実施しました。

<競技・講習会>

●第1回支部カップ戦 兼 埼玉県総合スポーツ大会出場チーム選考会

7月3日（日）熊谷運動公園弓道場 参加101名

東 部 支 部

支部長 二見富士夫

一年半を振り返り

総務部長 脇本 緑

東部支部の役員を仰せつかりまして1年半が経ちました。正に右も左もわからないまま現在に至っている感覚です。このような調子ですからさぞや周囲の方々には大変ご迷惑をおかけしていることと思います。

会員の皆様がより楽しく、健全に弓道に取り組めるかということが大切であり、それは「公平性」に起因すると信じて担当業務に従事しております。

そのような中、役員を拝命してから今日までは「withコロナ」の活動でした。

弓道の世界ばかりではありませんが、今までの常識が通用しなくなってしまいました。大会などの行事を中止したり、規模を縮小したりせざるをえなくなりました。

「静寂の中での冴えた弦音」

自分が体現できなくても、達人の射を拝見し、拝聴する。弓道の醍醐味の一つはそこにあると確信しておりますが、コロナ禍では、集まってはいけない、しゃべってはいけない、自分の行射がすんだら速やかに立ち去らなくてはいけないということで、見取り稽古もかなわず、弓道人同士のマニアックな情報交換もままならずという状況が続いております。

「止まない雨はない。」ということを知り、今後も微力ですが真摯に支部の役員業務に取り組んで参る所存です。

<競技・講習会>

●東部支部遠的大会

令和4年6月4日(土) 県立武道館弓道場
参加47名、個人戦:①各務勝洋、②高野 聖、
③細野隆志

●支部選手権兼県民総合スポーツ大会予選会

令和4年7月23日(土) 県立武道館弓道場

【中止】各道場からの記録報告で選手を選出

①上尾市チーム②春日部チーム③久喜市チーム
④桶川チーム以上4チーム12名を選出

団体①熊谷B(馬場信真、関口尚人、高荷國男)
②熊谷F(大嶋道雄、新井好一、荘子宏幸)
○一部:①西岡謙市朗(深谷)②青木 豊(行田)
③茂木昭夫(熊谷)、○二部:①佐藤敏勝(本庄)
②関口尚人(熊谷)③山本清志(鴻巣)、○三部:
①大嶋道雄(熊谷)②新井美穂(行田)③小林
昭(深谷)

●第2回支部カップ戦 兼 埼玉県武道大会支部代表選手選考会

8月28日(日) 熊谷運動公園弓道場 参加91名
団体①熊谷C(関口尚人、関口淳子、坂本温見)、
②熊谷H(小島玄二、藤谷雪北、高橋久雄)
○一部:①若林孝子(本庄)②樋口和広(行田)
③青木 豊(行田)、○二部:①高荷國男(熊谷)
②小島玄二(熊谷)③関口尚人(熊谷)④中 唯
志(熊谷)⑤島崎崇光(行田)、○三部:①坂本
温見(熊谷)②大嶋道雄(熊谷)③田中美穂子
(鴻巣)

●第112回支部高校生大会

8月17日(水) 熊谷運動公園弓道場 参加:
男子106名、女子116名 計14校 各8射
優秀高校:男子:本庄高等学校、女子:羽生第
一高等学校

個人:男子:①後藤蒼門(本庄)②宮坂 颯③
尾高翔輝(深谷第一)、女子:①深作美月(羽
生第一)②加川瑠莉(本庄)③白井美柚(羽生
第一)

●第1回支部講習会

4月19日 本庄市若泉運動公園弓道場
初二段7名 講師:岡芹喜行教士
4月24日 熊谷運動公園弓道場
初二段18名 講師:高橋久雄教士
4月24日 行田市総合公園弓道場
参四段23名 講師:戸塚藤代教士
4月26日 深谷市総合体育館弓道場 参四段
19名 講師:飯島千代子範士、島村保男教士

●第2回支部講習会

5月25日 行田市総合公園弓道場
初二段9名 講師:飯島千代子範士
6月2日 熊谷運動公園弓道場
参四段23名 講師:飯島千代子範士
6月5日 本庄市若泉運動公園弓道場
初二段9名 講師:高橋久雄教士
8月21日 本庄市若泉運動公園弓道場
参四段17名 講師:岡芹喜行教士

●県南・東部支部高校選手権大会

令和4年8月19・20日(金・土) 両日で計318名
大宮公園弓道場

女子個人:①佐々木はあい(伊奈学園)②金井愛莉(春日部女子)③深澤優和(久喜)

●東部支部道場対抗戦

兼 県武道大会予選会

令和4年9月17日(土) 県立武道館弓道場
参加70名、分割開催(午前37名、午後33名)

①上尾市、②久喜市、③春日部市

選手選考結果:監督:高野 聖、

一般女子:石井千尋、村上節子、麻生とし江
大垣朋子、門脇三葉子

一般男子:三田 明、新里 陵、高野 聖
綾戸岩雄、仲田孝雄

●第1回講習会

令和4年4月2日(土) 大宮公園弓道場

参加18名 講師:綾戸岩雄教士 脇本 緑錬士
内容:審査方式にて一手行射 入場から退場迄の動作実技 射技指導 仕上げ行射

●第2回講習会

令和4年5月8日(日) 大宮公園弓道場

参加21名 講師:小林次雄教士 山本管子錬士

内容:審査方式にて一手行射 入退場・体配の諸注意 射技指導 仕上げ行射

●第3回講習会

令和4年7月31日(日) 大宮公園弓道場

参加75名(3部制) 講師:大上直美教士 村上広子教士 山崎朋美教士 二見富士夫錬士 高橋かおる錬士 吉丸 寛錬士

内容:基本の姿勢 歩き方 審査方式の体配指導

●第4回講習会【中止】

令和4年8月27日(土) 県立武道館弓道場

●第5回講習会

令和4年9月24日(土) 県立武道館弓道場

参加32名 講師:北原きい子教士 村上節子教士

内容:審査方式にて一手行射 講評 射技指導 仕上げ行射

県南支部

支部長 鹿野 信恵

#弓道が好きな人と繋がりたい

吉川市弓道連盟 五十川実千恵

「この道場、活動していないのかと思いました」若手会員からのこの一言は衝撃でした。SNSでの情報発信が当たり前のこの時代、「吉川市弓道連盟 一心館弓道場」もホームページを開設してはいますが、更新されるのは年に数回程度、FaceBookはずっと更新できていませんでした。

コロナ禍の終結が見えていない状況下では、なおさらネットの情報が重要さを増していると感じます。

そこで、この夏から満を持してInstagramを始めることにしました。注目をしてもらうためにはいわゆる“映え”の要素も必要であり、なにより正しい情報をタイムリーに伝えることが肝要です。スマートフォンから撮影した写真がすぐに、誰でも簡単に投稿できる手軽さそして利用者の多さを考慮してInstagramを選択しました。

いざ始めてみると、想定していた以上の反響がありました。近隣弓連の公式アカウントや弓道愛好家からフォローしていただけることはある程度予測できましたが、海外で弓を引かれている方や武道に興味のある外国の方、写真家の方までフォローや“いいね”がたくさん寄せられました。Instagramは写真や動画投稿がメインです。添えられた文字が理解できなくても、目で見ても感じてもらえるようで、道場内から近隣連盟、県内各支部、県連盟内、他県、そして世界の方々の繋がりができていることに驚いています。

投稿には「#弓道が好きな人と繋がりたい」という#(ハッシュタグ)をつけています。文字通りここから、一人でも多くの方に繋がりと美しさを感じる弓具の数々、魅力的な素敵な道場、そして先生方の素晴らしい射に触れ、弓道の魅力がSAITAMAから世界へ伝わることを願いつつ、これからも活動していきたいと思っています。



(上と右は
インスタの例)



県 央 支 部

支部長 荒井 渉

記念総合体育館弓道場

記念彩弓会会長 山崎 孝美

<競技・講習会>

●令和4年度 県南支部選手権

令和4年6月5日(日) 県営大宮公園弓道場
参加95名(午前・午後二部制で実施)
午前の部:①松本英悟(草加)②小関一哉(越谷)③藤井健人(松伏)
午後の部:①郡司 勉(吉川)②阿部武夫(草加)③鹿野信恵(越谷)
総合優勝:松本英悟(草加)

●令和4年度 県南支部優勝杯戦【中止】

●第1回講習会 参・四段の部

令和4年5月1日(日) 県営大宮公園弓道場
参加30名 講師:岡芹喜行、宮澤梢枝各教士

●第1回講習会 参段以下の部

令和4年5月3日(火祝) 県営大宮公園弓道場
参加20名 講師:瀧上三郎、寶田秀子各教士

●第1回講習会 弐段以下の部

令和4年5月4日(水) 県営大宮公園弓道場
参加21名 講師:大竹淑夫、鈴木多恵子各教士

●第2回講習会 弐段以下の部

令和4年9月4日(日) 県営大宮公園弓道場
参加26名 講師:谷口保雄、小川幸子各教士

●第2回講習会 参・四段の部

令和4年9月11日(日) 県営大宮公園弓道場
参加31名 講師:北原きい子、森 正一各教士

●県南支部高校生講習会 【中止】

※講習内容は各段位に応じて体配・射技指導等を実施

●県南東部高校生大会

令和4年8月19日(金)、20日(土)
審判員派遣中止

●記念彩弓会の成り立ち

彩弓会は、平成15年に完成したさいたま市記念総合体育館(サイデン化学アリーナ)弓道場を活動拠点とする弓道会です。記念総合体育館の完成と同時に、旧埼玉県立武道館にあった武弓会のメンバーを主な会員として発足しました。それから現在に至るまでの約20年間で、発足当時80名足らずの会員は120名余りとなっています。コロナ前に140名近くいた会員数からは減少しました。

●コロナ禍での練習

彩弓会の会員は、自分の都合のつく時間帯に道場に来てそれぞれが2時間ほどの稽古を行っております。緊急事態宣言により令和2年は3月~6月、令和3年1月~3月の臨時休館があり、その後もまん延防止等重点措置や再びの緊急事態宣言により閉館時間の1時間繰り上げで、なかなか思うように練習することができませんでした。令和3年10月以降、体育館は通常開館となりましたが、弓道場については練習人数を現在も15名までとして密の回避を徹底しており、感染対策を行いながら練習しています。

月例射会は、感染状況を見て可能な時に15名を1グループとして3~4グループの完全入替・分散形式で実施しています。また、講習会は3年振りに今年7月、浅野有三先生に講師をお願いして午前午後15名ずつ分散・完全入替で実施しました。講習を受ける時間こそ通常の半分でしたが、中身の濃い充実した講習会になりました。

体育館主催の初心者弓道教室も今年は9月から定員15名で毎週土曜に8回実施いたします。



こちら3年ぶりの開催となり、定員はあっという間に埋まってしまったということで、入れなかった方に申し訳なく思います。

●結びに

彩弓会は来年20周年を迎えます。コロナが終息し、会員が集まって20周年の射会ができるようになることを願っております。今後も、先生方にご指導をいただきながら、「射法射技の修練」と「会員の和」を目標に会を発展させていきたいと思っております。

<競技・講習会>

●県民総合スポーツ大会選手候補者選考会

令和4年6月18日(土) 大宮公園弓道場
参加71名

●武道大会選手候補者選考会

令和4年7月16日(土) 大宮公園弓道場
参加47名

●夏季高校生・中学生大会

令和4年8月17日(水)女子、18日(木)男子
大宮公園弓道場 参加476名

- 団体男子／①浦和A(樋口・宮原・鈴木)
②大宮A(佐藤・小林・大島)③浦和西A(折原・
梅瀬・富張)○団体女子／①大宮光陵A(柴野・
福山・相場)②大宮南A(井川・松下・竹内)
③市立浦和A(小芦・村上・廣松)○個人男子
／①若野裕人(市立浦和)②富張友太(浦和西)
③鈴木晶太郎(浦和)
○個人女子／①福山莉央(大宮光陵)②村上純
奈(市立浦和)③竹内 楓(大宮南)○中学生
個人の部／①野津桜香(市立浦和)②串間萌花
(市立浦和)③小川智穂(市立浦和)

●県民総合スポーツ大会及び武道大会選手候補者選考会

令和4年8月28日(日) 大宮公園弓道場
参加55名 12名の選手を選出

●参・四段講習会

令和4年4月23日(土) 大宮公園弓道場
参加55名 講師：浅野有三、松澤かおり、平
野博幸各教士 講習内容：肌脱ぎ・櫛がけ指導、
一手行射、射技指導、一手行射

●式段以下講習会

令和4年4月24日(日) 大宮公園弓道場
参加42名 講師：本橋民夫、古泉利昭、竹内

せき子各教士 講習内容：体配指導、一手行射、
射技解説、射技指導

●称号者(教士)講習会

令和4年4月29日(金) 大宮公園弓道場
参加15名 講師：石川武夫範士
講習内容：介添講評、一手行射と個人別講評、
一つの指導と講評、石川範士による演武と説明、
射技指導

●五段講習会

令和4年5月28日(土) 大宮公園弓道場
参加20名 講師：鷹巣光子、浅子好夫各教士
講習内容：肌脱ぎ・櫛さばきの練習、一手行射、
持ちの射礼、射技指導

●称号者(錬士)講習会

令和4年5月29日(日) 県立武道館弓道場
参加24名 講師：柴田 猛範士
講習内容：一手行射と講評、演武を含めた講話、
射技指導

編集後記 70号

今回70号を記念して、埼弓連顧問／岡田義助先生に昔の思い出話をお願いしました。先生には36枚もの原稿を頂き、また貴重なお時間を割いていただき大変ありがとうございました。

原稿を読ませていただきましたが、一気に最後まで読み進んでしまいました。昭和の頃の懐かしくもあり、羨ましくもあり、古きよき時代の、一人の弓道人の歴史を感じることができました。読者の方にはティータイムのときにでも読んでいただけたらと思います。

岡田先生には、これからも益々のご活躍を祈念いたします。

なお紙面の都合で、後半は次号に掲載させていただきます。

編集長 高橋久雄

西部支部

支部長 池谷 茂

コロナ禍での初心者弓道教室

新座市弓道連盟 板橋 武子

平成元年創立の当道場は、創立以来毎年初心者弓道教室を開催し、現在会員数 100 名を超える道場に育ちました。

コロナ禍の3年間は初心者教室が中止となったこともありましたが、昨年は期間を短縮してどうにか開催できました。

今年も当初は開催が危ぶまれましたが、募集したところ多数の参加希望者があり一同喜びに沸きました。しかしながら5人立ちの道場であることと、収束が見えないコロナ感染を考えて参加者を制限して開催することとしました。出だしは好調でしたが、残念ながら途中で体育館が閉鎖となり、止む無く途中で中止となりました。それでも入会希望者が10名近くあり、現在は補講として一般会員の稽古が始まる前に指導を行なっています。

現在は巻藁稽古を省き、安土の的の近くから直接的を射させておりますが、結果として、いきなり的に対峙させるため、中てようとする癖（欲望）が付き、体が安定せず弓道の最も大切な「弓射における心身一如」を体得させられないことを憂慮しております。

尚、当道場の指導委員会では中てるを以て可とするのではなく、技を通して培う人間道を目指し日々努力するよう指導しております。



<競技・講習会>

●県遠的選手権支部予選会

令和4年5月28日（土）ふじみ野市スポーツセンター弓道場（遠的場） 参加 19名

選抜選手

○五段以上の部◇男子：飯尾 弘（所沢）粕谷吉一（所沢）池谷 茂（ふじみ野）◇女子：室町純子（志木）金庭祐子（朝霞）篠原妃誉（ふじみ野）

○四段以下の部◇男子：猪鼻正夫（三芳）中村徳海（所沢）轟 新二（ふじみ野）◇女子：清住洋恵（所沢）

●中部・西部支部親善射会【中止】

令和4年7月18日（月・祝） 日高アリーナ弓道場

●読売新聞埼玉支局杯争奪戦・県スポ予選・寿射会【中止】

令和4年8月14日（日） 所沢市民武道館

●高校武道大会地区予選

令和4年8月19日（金） 日高アリーナ弓道場 参加 106名

◇男子：①宮崎秀二（所沢北）②林 朝輝（所沢北）③師岡孝介（慶應志木）④永井淳誠（慶應志木）

◇女子：①野田知衣里（所沢北）②清村小雪（所沢商業）③イリアベエスター真理（所沢北）④並木一花（所沢北）

●支部選手権・県武道大会支部予選会【中止】

令和4年9月10日（土） 所沢市民武道館

新型コロナの急激な拡大を受け、多くの大会が中止となりました。楽しみにしていた会員のことを考えると残念極まりない思いです。

収束に向かい納射会、初射会が無事に開催できることを祈っております。

●第1回講習会

令和4年4月23日（土） 弐段まで 朝霞市内間木公園弓道場 参加：午前15名／午後15名 講師：瀧上三郎教士 内容：入退場・一手行射及び講評・体配指導・射技指導

令和4年4月23日（土） 参・四段 三芳町弓道場 参加：午前四段15名／午後参段15名 講師：本橋民夫教士 内容：体配指導・一手行射及び講評・講話・射技指導

●第2回講習会

令和4年5月29日（日） 弐段まで ふじみ野市立スポーツセンター弓道場 参加：午前15名／午後15名 講師：市川政子教士 内容：一手行射及び講評・入退場繰返指導・射技指導
令和4年5月29日（日） 参・四段 富士見市

立体育館弓道場 参加：午前四段 16 名／午後
参段 17 名 講師：岡田義助教士 内容：一手
行射・講評・5 人立行射を兼ねて射技指導

●指導者特別研修会

令和4年7月3日(日) 教士対象 ふじみ野市
立スポーツセンター弓道場 参加：11 名

講師：飯島千代子範士 内容：受講生による矢
渡と講評・一手行射・射礼・講評

●高校生夏期講習会

令和4年8月4日(木) 所沢市民武道館弓道場
参加：午前7名／午後6名 講師：池谷 茂教
士 内容：入退場・執弓の姿勢・矢の処理・一
手行射・講評

以上となりますが、今後、一日対応での講習
会が開催できることを願っております。

今後ともよろしくお願い致します。

【岡田義助先生の原稿（後半）から抜粋】

《 県立武道館利用のお知らせ 》

●錬成会：

- ・実施日：月数回（詳細は武道館の予定表
or 埼玉連 HP をご確認ください）
- ・参加条件：県連会員で弓道経験者
- ・費用：300 円
- ・備考：頂いたその参加料で武道館団体使
用料を払っている。また武道館嘱
託講師がボランティアで指導して
いる。

●月例稽古会：

- ・実施日：月 1 回
他の予定がない限り、1 月 5 月 7
月を除き、第 1 火曜の 9 時から
17 時迄
- ・参加条件：県連会員で経験者
- ・費用：無料（武道館の厚意による）
- ・備考：錬成会と同様に午前、午後と講師
が指導しています。

両会共多くの参加を望みます。

岡田義助

中 部 支 部

支部長 鷗田 富男

想いのままに

支部長 鷗田 富男

「埼玉連だより」70 号という区切りの時に弓
道にかかわるものとして、思い出を綴りたいと
思います。

初めに、「埼玉連だより」を拝読するたびに
思うのですが、編集にかかわっていただいた
方々のご尽力に敬服いたしております。また、
各支部で担当される方々も、毎号の記事編集に
お骨折りのことと思います。あらためて、御礼
申し上げます。

新型コロナウイルス感染の拡大で、生活環境
が一変したなかでの弓道修練は大変です。
特に、教室の開催など、会員拡大の場が少なく
なっております。中部支部では 13 道場・14 団
体で 600 名余の会員と大学 7 校、高校 21 校が
所属しており、会員数は微増で、さいわい減少
とはなっておらず、安堵しております。

また、弓道部を立ち上げる私立中学校もあり、
中学生指導を態勢化する道場もあって、将来の
会員拡大に期待をもちます。

私は平成 3 年に弓道を再開しました。
今の家に引っ越して来た時、弓を運び込んだの
を近所にお住いの会員さんが見ておられ、日高
市弓連に入会を勧められたのが縁です。

当時は 3 人立ちの道場でしたが、家族的な雰
囲気のなかで全員に鍵をわたされ、自由に道場
を使用しており、懐かしい思い出です。休日は
稽古・射会に明け暮れ、妻からは「遊び人さん」
と皮肉られながらも、賞状や昇段通知とともに
喜んでくれたことには感謝しております。

そして、平成 16 年国民体育大会の弓道会場
が日高市と決まったことで、喜びと開催にかか
わる不安とが交錯しました。候補地は他にもあ
ったと聞いておりますが市長・市民・関係者のご
尽力の賜物です。しかし、旧道場が撤去される
のには寂しさもありました。

「彩の国まごころ国体」のテーマで、青森県・
山形県での競技会場を含め、開催できました。

私は、昭和 42 年の埼玉国体に引き続き 2 回
の国体に、仕事上かかわることができました。
42 年の国体で皇后杯を受賞した方が高校の 1
年先輩だと聞いて、誇らしく思ったものです。

日高市文化体育館で弓道大会が開催されたのですが、諸先生のご指導のもと、多くの会員がそれぞれの部門でかかわることができ、貴重な経験になったことと思います。

国体終了後は、県西部での大きな道場として埼玉県弓道連盟の講習会場・審査会場として、あるいは、中部支部の諸行事の会場として活用されています。このため、運営にかかわる支部会員や地元日高市の会員の皆様に負担をいただいておりますが、皆さん気持ちよく協力いただいております、感謝に堪えません。

これからも多くの事業にかかわることとなりますが、よろしく願いいたします。

<競技・講習会>

●第22回中部支部選手権大会

兼 読売新聞さいたま支局杯争奪弓道大会
令和4年7月17日(日) 日高アリーナ弓道場
参加22チーム68名(事前予選通過者)
団体の部①日高A(井上陽介、沼倉光広、関竹夫)②日高B(篠原和子、深堀秀治、中山政子)③小川A(安野雄次、井上孝子、伊藤謙吾)
個人の部①荒井一之(鶴ヶ島市)②沼倉光広(日高市)③北村邦男(毛呂山町)

●県民総合スポーツ大会支部予選会【中止】

令和4年7月24日(日) 日高アリーナ弓道場

●第27回中部・西部親善射会【中止】

令和4年7月18日(月祝) 日高アリーナ弓道場

●第16回みのり会弓道大会【中止】

令和4年10月4日(日) 日高アリーナ弓道場

●第1回支部講習会①(三段以下)

令和4年4月3日(日) 日高アリーナ弓道場
参加32名 講師：那須充良、須田明江各教士、宮崎 博錬士

●第1回支部講習会②(参四段)

令和4年4月17日(日) 日高アリーナ弓道場
参加33名 講師：那須充良、須田明江各教士、宮崎 博錬士

●第2回支部講習会(四段以下)

令和4年7月3日(日) 日高アリーナ弓道場
参加48名 講師：那須充良、寫田富男、寶田常則 各教士

●第3回支部講習会(四段以下)【中止】

令和4年8月27日(日) 日高アリーナ弓道場

オンライン全国弓道大会運営報告

オンライン大会担当 中島 勇

埼玉連として、令和3年度オンライン全国弓道大会に初参加しました。報告が遅くなりましたが、概要を報告いたします。

2回目となる今大会は埼玉県を含む3道県が増となり、34都道府県の参加で開催されました。

開催日：令和4年3月13日(日)

開催会場：熊谷運動公園弓道場

1 機器概要

- ①映像配信用端末PC (Zoom 配信)
+WEBカメラ+三脚+外部スピーカー
+大型ディスプレイ
- ②記録用端末PC(グーグルスプレッドシート 記入)
- ③モバイルWi-Fi ④スマートフォン

2 設置準備

- (1) 機器設置状況の確認：WEBカメラとして500万画素のカメラ。「始め」の音が聴きづらいので、外部スピーカーを購入しました。
- (2) 映像配信用PCとレンタルしたWi-Fiモバイルルーターの接続設定
- (3) 記録用PCに、Wi-Fiモバイルルーター接続設定
- (4) 全日本弓道連盟とのZoom接続試験

3 運営当日

- (1) 今回は競技役員も初めてで、役員への説明機会がコロナ禍対応で設けられませんでした。このため、開始前のZoom接続とスプレッドシート対応、LINEチャットに同時に入ることができませんでした。PC担当者が2名ずつ配置できれば良かったと思う。
- (2) 会場対応

- ①本座手前の椅子設置は、各県に任されており、用意しました。
- ②応援旗・ゼッケン：いくつかの県が、各県の旗を後方に設置していました。画面後方に大きく「がんばれ〇〇県」などとあると画面に大会実施感が出てきます。来年は埼玉県の旗を掲げたいと思いました。県名ゼッケンを右腰に付けたチームもありました。

4 改善点

- (1) 次年度以降もオンライン大会の場合
 - ① 外部マイク (弦音が聞き取りづらいため)
 - ② Wi-Fi モバイルルーター2セット

- ③ 各種延長ケーブル
 - ④ 外部映像出力機器
 - ⑤ 応援旗
 - ⑥ 役員をされる方たちへの説明の機会
- (2) 今後、的中状況を映すカメラが必要となることも考えられます。
- (3) 可能であれば会場の照度アップが望ましい

と思われます。

5 最後に

埼玉連会員の皆様の中にはユーチューブでの配信をご覧になった方もいらっしゃると思います。視聴しての結果、改善点などをお気づきの方は、ご意見をいただければ幸いです。

埼玉連だより 70号発行記念として

埼玉連顧問 岡田義助先生に昔の思い出を語っていただきました。

思 出

埼玉連顧問 岡田 義助

私が弓道に出会って64年目を迎えることができた。思い起こすとかなり生活の中に入り込んでいたというか、生活の一部となって過ごしてきたと思います。

しかし、年を重ねる毎に筋力は衰えてきて自分の思うように引けなくなってきました。筋力とともに足腰の衰えが確実に忍び寄ってきていると思っていたら、この度埼玉連だよりの原稿を依頼されました。

10年一昔といわれますが、そのもっとも昔のこと、思い出すまま記憶を辿りながら記していこうと決心した次第です。

●弓道始める迄

私が正式に弓道始めたのは、昭和33年4月埼玉県立与野高校に入学し、弓道部に入学してからである。正式にと言ったのは、中学1年時、当時の中学校に弓道部があり友達に誘われ入学したが、全然弓を持たせてもらえず先輩の引いた矢取りばかり、つまらなくなって退部、籠球部に入り中学生生活を終えた。高校に入り籠球部にと考えていたが、籠球部はなく何処にしようか迷っていると、義兄の父が弓道をしていて、道具一式をあげるから弓道をやってみたらと、弓、矢、碟を私宅に持ってきた。その弓は以外と素人の私には強かった。ただ、今迄やっていた籠球に比べると動と静であり、これで運動部なのか不満はあったが、他に入ろうとする部はなく仕方なく弓道部に入学してしまった。

新入部員は30名を超えていたと思う。

ただ、私は入りたくて入った訳ではなかったので、最初の頃は練習を良くサボった。そんな1年に対し、上級生は正門と裏門に待機していて、帰る理由を尋ねられ段々とサボる理由がなくなり、次第に練習するようになった。以降今日迄、弓を引き続けることになるとは、当時は思いもしなかった。

●高校時

このような訳で入学したが、当時弓道部の練習場は建屋がなく、安土にトタン屋根があるだけ(写真1)、射る場所は青空に教室で使った古い教壇を並べてその上に立って射っていた。(写真2)

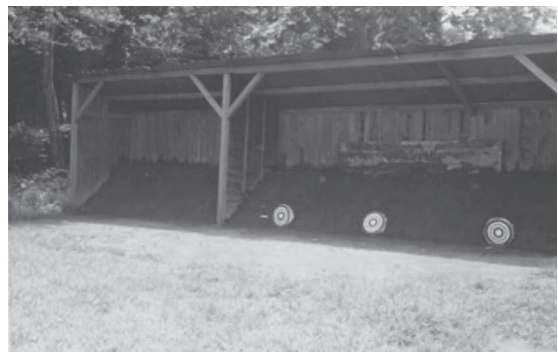


写真1：高校時の安土



写真2：高校時の青空道場

雨が降ると校舎間の渡り廊下の屋根の下に巻藁を置いての練習だった。新入部員が多かったため何回かの前で引かせてもらったが、本格的な前練習は夏休みに入った頃だったと思う。

10月頃になると1年生の中には当たりが出てくる者がいたが、私の当りは12月になっても半分も当らなかつたと記憶している。

翌年の2月頃だったと思うが、新人戦が秩父の宝登山神社内弓道場で行われた。その頃の1年生はあれだけ入部していた部員が次々と退部10名足らずになっていて、2年生が2名しかいなくて、1年生の私達も新人戦の団体要員として組み込まれた。3人団体で何組組まれたか覚えていないが、私はB組の大前となった。

県大会最初の試合だったが、練習で半分も当らなかつたので、上がることなく1射目を離すとの上に抜けた。的の真上だったので、少し的付けを下げればと考え狙いを少し下げて2射目を離すと真ん中に当たった。2射目と同じ狙いで3射目を離すとこれも当り4射目も当って四ツ矢3中と練習でもたまにしかない当りで自分でもびっくりだったが、その後2回目は四ツ矢皆中、最後の3回目も四ツ矢皆中と終わってみれば12射11中で更にびっくり、団体戦2位となった。



写真3：高校新人戦終了後、長瀬で弓を引く

何で練習以上の成績が出せたのか今でも良く解らない。でも、その大会がきっかけとなりそれからは7割以上当るようになり、練習にも熱が入るようになった。

2年生となりインターハイ予選が行われた。私達のチームは敗けてしまったが、もう一つのチームが1位となり、我が校にとって初のインターハイ出場、私はそのチームの補欠となった。

インターハイは宮崎県の大淀高校で行われた。大会が近づくとつれ、正選手の先輩の調子が悪くなり、大会前日の会場練習でも当りが悪く、先生は私との選手交代を届け出た。その先輩のその後の行動が今でも忘れられない。大会前日

の夜、夕飯を済ませ部屋に戻り生徒同士で寛いでいたところ、交代させられた先輩がやおら自分の矢筒を持ってきて矢を取りだし、私達の目の前で矢羽をむしり始めたのである。そして黙々と矢羽を1本、2本と全てむしり取り、四ツ矢全てを棒矢にしてしまったのである。その様子を見ていた仲間も勿論、私も一言も発することができず黙っているだけであった。交代させられた先輩はどんな思いで矢羽をむしったか、思いは計り知れないしその先輩は卒業後音信不通となった。嫌な思い出の一つである。大会は予選落ちであった。

2年生の夏休み相変わらず野天で練習していたが、太陽の日差しが強く、思うように弓が引けない。昼間でも屋根があり、夜間照明もあり、雨が降っても練習ができることから、現在の浦和市営球場の西側にあった浦和市営弓道場（現駒場弓道場の前身）に練習の場を求めた。

与野高弓道部創設に尽力された先輩（当時増尾弓具店を営んでいて自身も弓を引いていた）の紹介で通うことができた。道場には管理人さんが住んでいて、ご主人も弓を引いていたため、午後9時の門限を超えて11時頃まで引いていた。

練習をしている一般の方で、午前10時頃になると道場に見えて練習、昼になると居なくなり午後また見えて練習、的中がすごく良く、外すことが希、先輩からの紹介で後に範士となった伊沢千珠先生との出会いであった。

それからは伊沢先生と道場で会うと矢取りをしようと言われ、四ツ矢での矢取りが始まる。矢取りは地獄矢取りで同じ的中だったら前の人が矢取り。当てても当てても後ろの人も同中だと前の人が矢取りに。矢取りをする間、後方の方は弓彘をして待っているの、矢取りの人が矢をあげて帰ってくると待っている人は、すぐに引き始め弓彘をつけて引こうとした時は、既に2本射終わり慌てて速く引こうとすると失矢してしまうので、矢取りをして帰ってきて同時に引こうと思ったら弓彘は外せない。今では怒られるが、当時は弓彘を着けたまま矢取りに行き、何とか伊沢先生を矢取りに行かそうと必死で引いていた。当時私は練習でも試合でもシャツに長ズボン、女子はスカート、一般の人は道着袴の人は何人かいたが、殆どはズボン姿、真夏にはステテコとランニングシャツ姿の人もいた。

夜になると大勢の一般の人が見え、集まった

人達で地獄矢取り。矢振りをし順番に名前を書き一手を持って引き、的に当らなかった人かまたは、当っても後ろの人も同じ本数を当てると一番前の人矢取り、以降前の人後ろの人より当らない限り矢取りから抜け出せない。故玉之内淳先生も当時練習仲間だったが、後に浦和市宮弓道場では、弓道の習い始めで良く矢取りに行かされたと笑っておられた。

そんな毎日で夏休み中は1日200本以上引いていたと思う。

道場には囲炉裏があり、弓を引かずに将棋だけをしに来る人もいたが素人将棋一勝負の時間に伊沢先生と矢取りをし、1人80射を引いたことがあった。朝9時に道場へ行き、伊沢先生と矢取り稽古、先生が昼食に帰ると私は道場で弁当を食べ昼寝をしながら伊沢先生を待ち、見ると矢取り稽古の続き、夜は大勢の矢取り稽古の毎日であった。

3年の夏休みには合宿があり、栃木県日光東照宮の下に宮の下旅館があり弓道場が併設されていた。

インターハイの県予選では、私の止メ矢が入れば同中という場面で抜き2位になり、がっかりしながら電車に乗らず歩いて帰った。その後、失意の気分を変えるため、三ツ牒から四ツ牒に変えた。

その後の国体予選では、県大会で優勝、出場権を得た。第15回国民体育大会(昭和35年/熊本県)である。(写真4)



写真4：第15回熊本大会

大会までの強化練習が始まり一般の選手も集まった。一般男子大堅正選手(秩父市)松澤岳選手(熊谷市)町田真之亮選手(名栗村元村長)の3名、一般女子は高校生が1名入る規定で、正田昌代選手(行田女子高)小久保恵子選手(現儘田/羽生市)大内光江選手(浦和市)一般監督根岸好雄(与野市)、そして私達与野高選手

3名と監督の栗原行平先生が大宮公園弓道場へ集合した。

指導の先生は小澤武雄先生(小澤道春範士の父親)で特に遠的の指導を受けた。当時の教えは、足踏みは肩幅で、引き分けて会に入ったら腰から右側に曲げ、的付けしたら体に十文字になるよう離れを、との教えであった。その教え通り練習を繰り返したら、本大会の遠的競技で優勝してしまった。優勝の副賞であった熊本県の県木の苗木(銀杏)は現在でも与野高校弓道場の安土の側で私以上の太さになって道場を見下している。

国体終了後の帰宅途中ハプニングが。台風で列車が大阪駅浸水のため運行不能となり、ストップ。後に先生から聞いた話だが、手持ち残金が少なく旅館に泊まるお金がなく困った先生は、自分が神主で八坂神社系列あるため、京都の八坂神社に電話し一夜の宿を確保してくれたのである。八坂神社の本殿だったと思うが、夜中トイレに起きても真っ暗で仲間を起して行った記憶がある。翌日帰途に着いたが先生の残金の関係で大阪から夜行鈍行で東京に向かった。夜中誰も乗らない、降りない駅も全てとまり、今では考えられない16時間もかかりやっと東京駅に着いた。

大学の入学前、弓を購入するべく先輩の弓具店に行った。そして多くの弓の中から肥後三郎の上作が気に入り、「これを」と言うと、「この弓は秩父の町田伝三先生(現秩父支部長の祖父)という方が先日来店し選び預かっている、町田先生に電話していいよと言わない限り渡すことはできない」との先輩の言葉。すぐに弓具店の電話を借りて町田先生宅に電話、幸い在宅していて事情を話すと高校生の頼みに嫌とも言えず譲っていただけだ。6,300円だったと思う。この弓で、2年後三十三間堂で優勝するとは当時は思いもよらなかった。

●大学入学時

大学入学後、弓道部の先輩から「何故うちの大学に来たのか」と聞かれたが、その意味が解らなかった。後に聞いた話では、全国大会や関東大会等で優秀な成績を納めると、各大学から誘いがありセレクション入学があるとのこと。私は知らずに一般入試で入学したが、後に高校の先生に聞いた話では、何校か誘いがあったが全て断ったとのことであったが理由は聞いていない。

1年生での入部者は多くいたが、殆どの人は初心者で巻藁からだったが、私は上級生と共に的前練習に励んだ。私が的前練習をしている中、多くの1年生は巻藁的張りをしているの、同じ1年生の私は的張りを手伝おうとすると、「結構です」と皆が遠慮の言葉、当時の頭はオールバックで老け顔で、私のことを上級生だと思って遠慮したのだと後に笑いながら言われた。

少しして伊沢先生と同じく諸躰にした。今は廃業してしまっただが目白駅前の中村躰店を伊沢先生に紹介してもらい、諸躰の三本、四本、どちらでも引けるように中指、薬指の皮を厚くし通常は伊沢先生と同じ諸四ツで引いた（通常は乙矢を薬指と小指の間に入れて引いたが、諸躰は殆どの弓引きが三ツ躰で引き、薬指と小指で乙矢を包み持つ。私は四ツ躰をして引いていたため、小指のみで包み持つことができず離れで乙矢も小指から外れてしまうので、最悪の場合は甲矢は諸三ツ、乙矢は諸四ツで引いた）。諸躰代金は2万円だったと記憶している。

2年生で第13回全日本弓道選手権遠大会（昭和37年/学生の部）に出場した。場所は三十三間堂の裏庭、当時の的は現在のような畳でなく、柱を立て的を四方から吊るし、当てる的を通り抜けてしまう形式で、当ると采配棒の房が出て外すとただの棒で、1次予選120cm的で4射3中以上、2次予選が1m的で一手皆中、決勝は75cm的で射詰だった。

幸いなことに優勝することができ、大きな和佐



写真5：和佐楯を持つ私

大八郎楯を手にする
ことができた。
(写真5)

翌年の大会も運
良く優勝できた
が、終わって控え
に戻った途端、鼻
血がドバツと出た
のを思い出す。
三十三間堂大会で
優勝すると三十三
間堂内の仏像の前
の通路の天井に畳

一畳分位もある額が揚げられる。どうせ順送りの額で何十年かしたら外されるのではと思っていたら額がいっぱいになったらそこで終了とのこと。私の兄弟達は何回か京都に行っているが、

三十三間堂に行くと仏像を見るのは勿論だが、通路上の額が気になりずっと上を向いて歩いていて首が痛くなったと笑っていた。

私が三十三間堂大会で初優勝した年の正月頃から父は体調の異変を訴えていて、家族からの再三の進めでやっと病院に行ったが、結果は胃癌で手の施しようもない状態とのことであった。私が初優勝した時、父は病院で手術をし終わり病院内で静養していた。兄から聞いた話では、お腹を開いたが摘出もできずすぐに閉じてしまったとのこと。本人は胃潰瘍と思っているが、後数ヶ月経られるかどうかの状態とのことであった。その入院先に和佐楯と賞状を持ってかけたが、父は手術も終わり回復すると思っていたのか、思っていたより元気で大変喜んでくれて相部屋の人達に自分の息子がと嬉しそうに語っていた。

その後、父の希望で自宅に戻り8月初旬に亡くなった。52歳であった。

葬儀も終わりぼんやりしていると、弓道部から夏合宿をどうするかとの連絡が。気が進まなかったが、母親や兄弟から「気分転換にもなるから合宿に参加しなさい」と背中を押され、参加することになった。



写真6：北海道函館弓道場の前で

合宿先は北海道の函館、練習をする弓道場（写真6）はあるものの安い宿泊所がなく、大学の先輩が運営しているお寺に。布団はなく自衛隊から1人3枚の毛布を借り本堂に泊まった。毛布3枚の内訳は敷毛布、掛毛布、丸めて枕である。1週間ほどの合宿が終わり、その後道内一般道場との親善試合をして廻った。（写真6-1）

合宿中は夏らしい陽気であったが、遠征中は天気が一変。8月なのに寒くて行く先々でストー

ブを炊いて暖をとりながらの試合であった。



写真 6-1 : 合宿後の親善試合
北海道大学弓道場にて私

合宿は春と夏に行われたが、時によっては秋のリーグ戦前に行くこともあった。記憶に残る合宿を記してみると、先に記した北海道は勿論だが、この他にも現在の大宮公園弓道場での合宿では、隣接する木造二階建（文化会館）での宿泊。

鹿島神宮弓道場では、道場内にあったトイレ（大の方）の個室がとつともなく広く、四隅に人が坐っていても大丈夫な程で驚いたことや、この合宿中2日間公式練習で抜かなかったこと。

後に全弓連の会長となる齋藤友治先生が経営する渋川の軽石工場内の道場での合宿、齋藤先生が合宿初日に矢渡をやってあげると言うて行なったが、終わった後に失敗したのもう1回矢渡を行ったこと。男子は道場内で寝泊まりしていたが夜中に後輩の1人がひきつけを起し、癲癇の症状を初めて見たこと。



写真 7 : 鹿島神宮合宿練習

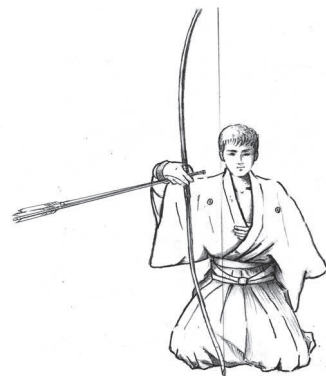
そして最後の夏合宿だった新潟県弥彦村である。弥彦村に決めたのは弓道部の後輩の実家があり、お父さんは弥彦グランドホテルのオーナー。オーナーの話では、合宿する頃に年に一度の灯ろう祭りがあり、ホテルで灯ろう神輿を作って参加したいが、担ぎ手がいなく、毎年不参加になっている。仮設の弓道場も造るのでぜひホテルに泊まり、合宿の最後に灯ろう神輿を担いでもらいたいとのことで、合宿日を調整して行なった。灯ろう祭りでは弓道部男子全員が道着袴姿で参加（写真 8）、村の人から景気の水をかけられ袴はビリビリになったが、灯ろう祭りを多いに盛り上げた。



写真 8 : 合宿最終日全国三大灯ろう祭り

もう1件、合宿ではないが全日本の大会で京都に行った折り、智積院に宿泊したが、食事が精進料理で体に力が入らず大会も苦戦した。

（後半は次号になります。編集部）



画・松本 正